

短期留学生日本語プログラム 平成17（2005）年度

尾 崎 明 人

1. プログラムの概要

今年度から短期交換留学生のみを対象として開設されていた短期日本語コースが廃止され、全学向日本語講座に統合された。この改革に伴い、これまでは週5コマのコースしかなかったものが、週10コマの集中コースも受講できることとなり、短期留学生のコース選択の幅が大きく広がることとなった。

(1) 開講期間

春学期：2005年4月14日(木)～2005年7月15日(金)

秋学期：2005年10月17日(月)～2006年1月20日(金)

(2) 開講クラス

集中 (IJ) コースは、IJ111, IJ112, IJ211, IJ212

の4レベル、標準 (SJ) コースはSJ101, SJ102, SJ200, SJ201, SJ202, SJ300, SJ301, SJ302の8レベルで開講した。なお、漢字アラカルトなど単位認定を行わない科目も開講されたが、この報告では集中コース、標準コースについて報告する。

(3) 開講時間数

集中コース：12週間, 週5コマ, 合計60コマ(90時間)

標準コース：12週間, 週10コマ, 合計120コマ(180時間)

(4) 受講者数

表1は集中コース、表2は標準コースの受講者数および成績である。

表1 平成17年度集中コース受講者数および最終成績

(単位：人)

レベ ル	IJ111		IJ112		IJ211		IJ212		合計	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
中 国	1	6		2	2				3	8
韓 国			3		2	1		3	5	4
タ イ		1								1
ウズベキスタン				1						1
ポ ー ラ ン ド	1	1							1	1
フ ラ ン ス		1			1			1	1	2
イ ギ リ ス				2			1	1	1	3
ド イ ツ		1								1
ベ ル ギ ー		1					1		1	1
ア メ リ カ		4	1	1	1	1	2		4	6
オーストラリア					1				1	
合 計	2	15	4	6	7	2	4	5	17	28
成 績 A*		4		1				2		7
成 績 A	1	9	4	1	5		1	1	11	11
成 績 B		2		1	1	1	3	2	4	6
成 績 C				2	1	1			1	3
不 合 格									0	0
聴 講	1			1					1	1

表2 平成17年度標準コース受講者数および最終成績

(単位：人)

レベル 学期	SJ101		SJ102		SJ200		SJ201		SJ202		SJ300		SJ301		SJ302		合計	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
中国	2	2	1	1			2								1		6	3
韓国									1	1		1	3	1		3	4	6
タイ									1								1	
インドネシア			1				1		1			1					3	1
ウズベキスタン	1																1	
ポーランド	1					1											1	1
フランス			2				1		1	1							4	1
イギリス		2	1	1								1					2	3
ドイツ	1																1	
スエーデン		2																2
アメリカ			3		2		1		5								11	
オーストラリア										1								1
合計	5	6	8	2	2	1	5	0	9	3	1	2	3	1	1	3	34	18
成績 A*		2										1		1		3		7
成績 A	5	1	3	2	1				7	2		1	3		1		20	6
成績 B		2	2						1		1						4	2
成績 C							2										2	
不合格		1																1
聴講			3		1	1	3		1	1							8	2

(注：前期は80点以上がAであったが、後期から評価段階が変更になり90点以上はA*、80~89点はAをつけることになった。)

2. プログラムの内容

(1) プレースメントテスト

短期留学生のみを対象に筆記テストと面接によりクラス分けを行った。上級レベル受講者には全学対象のプレースメントテストを受けるように指導した。コース開始後もクラス変更の希望に対しては本人と相談の上で納得の得られるように対応した。

(2) コースの概要

初級、中級段階では以下の教科書を主教材として使用した。

- ・A COURSE IN MODERN JAPANESE, Vol.1, Revised edition, 名古屋大学出版会
- ・A COURSE IN MODERN JAPANESE, VOL.2, Revised edition, 名古屋大学出版会
- ・『現代日本語コース中級I』名古屋大学出版会
- ・『現代日本語コース中級II』名古屋大学出版会

また、センターで開発した初中級のための会話、読解、漢字などの教材を使用した。上級では新聞、雑誌、テレビなど、生の素材を利用した教材を作成、使用した。

授業内容は、初級段階では①音声、②文字（平仮名、片仮名、漢字）、③文法練習、④ディクテーション、⑤会話、⑥コミュニケーション活動、⑦聴解、⑧読解、⑨プロジェクトワークなどの授業を行った。中上級では、言語技能を中心に①会話・用法練習、②談話・文法練習、③聞く練習、④読む練習、⑤作文、⑥スピーチなどの授業を行った。

コース内容の詳細は、全学向日本語講座の報告を参照されたい。

(3) その他の活動

春学期終了時と12月にパーティーを行った。日本語授業の一環として「パーティーの計画をたてる」というテーマで勉強していた初級後半レベルの学生たちが幹事役としてパーティーの準備と当日の進行役を務めた。

3. 試験と成績評価

シラバスに明記されている評価項目と配点は各クラスとも以下の通りである。

評価項目と配点：

Attendance	10%
Homework	10%
Quiz (Kanji)	10%
Oral Test (mid-term)	10%
Oral Test (final)	20%
Written Test (mid-term)	10%
Written Test (final)	20%
Class Performance	10%
Total	100%

成績は、表1と2に示したとおりである。受講者97名中聴講学生12名を除いた85名の成績は、A*またはAが62名(73%)、Bが16名(19%)、Cが6名(7%)、不合格は1名(1%)だった。

以上の結果と昨年度の成績(Aが83%、Bが13%、Cが4%)を比べると、Aが1割ほど減っている。特に集中コースでは、聴講を除く43名中AとA*が合わせて29名(67%)とかなり低い比率になっている。集中コースは今年度から開講されたものであり、来年度以降もこのような傾向が続くのかどうか注意する必要がある。

4. 学生の授業アンケート

今年度から開始された集中コースで受講者数が多かったIJ111の秋学期(受講者15名、アンケート回答者10名)を取り上げ、主な項目について以下に報告する。

表3 IJ111の授業アンケート結果

(単位：人)

	そう思う	どちらかと言えばそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えばそう思わない	そう思わない
問1. 授業時間は適当か	9			1	
問2. クラスの人数は適当か	6	2	2		
問3. クラスの雰囲気はよかったか	6	4			
問4. コースの進度は適当か	3	6	1		
問5. 教材は役に立ったか	4	4	1	1	
問6. テストは適当だったか	7	2	1		
問7. 勉強したことがよく理解できたか	2	4	4		
問8. 授業内容は役に立ったか	5	5			

問1の「授業時間数」については適当であったと考えられる。否定的に回答した1名は毎日4-5時間が適当だと回答していた。問2の「クラスの数」について否定的な回答はなかった。問3の「クラスの雰囲気」に関してはほぼ満足のいく結果が得られた。問4の「コースの進捗」と問7の「理解度」には関連があると思われる。数人の学生がコースの終盤では授業内容が盛りだくさんで負担が大きかったと述べている。特に既習者からはコース前半のスピードを上げて、後半はじっくり勉強できるようにするといった感想が出されていた。問5の「教材」について否定的に答えた学生はアメリカで使用していた教科書のほうがよかったとコメントしていた。問6の「テスト」と問8の「有用性」については特に問題はなかったと思われる。

個別の学習活動に関しては、ゲストと話す活動と口

頭発表の授業は7名の学生が「そう思う」と答えており満足度が高かった。一方、会話と読解の授業については「どちらとも言えない」がそれぞれ4名、否定的な回答がそれぞれ1名と2名で、満足度は相対的に低かった。

5. コースの総括と今後の課題

今年度から短期日本語コースが廃止されたため、単位を必要とする短期学生と単位を必要としない全学の学生が机を並べることになったが、aとbの2クラスが設けられたコースでは短期交換学生をできるだけ同じクラスに集めるように配慮した。また、出席や宿題提出状況に注意し、短期学生の学習状況を把握するよう努めた。昨年度までと比べると、コース運営が煩雑になったことは否めないが、コースの管理について特

に混乱はなかった。

今年度から開講した集中コースにどの程度の学生が登録するかに注目していた。結果は以下の通りであった。

春学期：集中コース17名／標準コース34名

秋学期：集中コース28名／標準コース18名

春と秋では明らかに登録状況が異なっている。秋学期のIJ111は15名と目立って学生が多い。これは、本国で多少日本語を学んだ学生が復習をかねてIJ111に登録し、集中的に初級日本語を終わらせようとしていたためである。今後もこのような傾向が続くのであれば、日本語プログラム全体のコース編成を検討する必

要がある。

非常勤予算の削減によってクラスの規模が大きくなることが予想される。短期学生の日本語ニーズに応え、これまで同様のきめ細かな指導を続けることも困難になるだろう。そのような状況の中でこれまでに得ている高い評価を維持するためにはカリキュラムのさらなる改善が求められる。会話クラスなど少人数でなければ教育効果があげにくい授業については、学内外の人的リソースを活用し少人数のグループ学習なども取り入れることが考えられる。来年度以降の検討課題である。